

平成29年10月2日

伊奈町長 大島 清 様

伊奈町行財政改革推進会議  
会 長 都 筑 信

費用対効果を踏まえた循環バス「いなまる」の運行形態の方向性について（答申）

平成29年3月27日付け企発第24号で諮問のあったことにつきまして、次のとおり答申いたします。

なお、付記した意見につきましても留意されますよう要望いたします。

#### 答 申

町内循環バス「いなまる」は、平成15年1月に総合センター送迎バスに代えて運行がはじまりました。運行から14年が経過し、時代の変遷とともに「いなまる」に求められる役割も変わってきていると考えられます。総合センターの利用者の送迎に加え町民の移動手段へ、そして今後は交通施策としての免許返納者への対応も期待されるところです。

現在は、町内の公共施設を中心に乗車定員30名の小型バス1台で南北のコースを一方向で運行しており、運行開始当初から大きな改正がなされておられません。利用者からは利便性が悪いとの意見もあるようです。

本会議は、町長からの諮問を受け、「いなまる」の運行状況、利用実績及び利用者アンケートを確認しながら、「いなまる」の運行形態の方向性について慎重に検討いたしました。その結果、バスの規格、運行台数及びルートの見直しなどの検討が必要であるとの結論に至りました。

平成30年9月に期限が到来する現行の伊奈町内循環バス委託業務の更新にあっては、住民ニーズを踏まえ、要検討とした事項を考慮しながら、世代間を超えた多くの町民の方々の生活手段として活用される、町民満足度が高い「いなまる」の運行を実現されるよう答申いたします。

## 意 見

- 1 運行における費用対効果の中には、町民の生活手段としての満足度が高いことも含まれます。高齢者の運転免許返納への対応など今後期待される役割を明確にしたうえで、運行形態等の検討をされたい。
- 2 医療機関や商業施設など要望の多い施設の利用に配慮するなどし、加えて、逆回り便の導入など町民ニーズを最大限取り入れるとともに、公共施設などを中継地点とする他交通機関との連携なども検討されたい。
- 3 快速運行、運行経路内での柔軟な乗降車策も研究し、更なる利便性の向上に努められたい。
- 4 高齢者利用料金の有料化についても検討されたい。
- 5 将来に向け、新たな「いなまる」の状況を見ながらデマンド方式など他の運行形態も研究されたい。